



水産物品質学 710
生命化学
 水産資源 × 微生物細胞工場 = 未来の「ものづくり」
 私たちの研究室では、水産資源の高品質化と高付加価値化を目指しています。海の生物遺伝資源から新たな有用遺伝子を探索し、その機能を解明しています。さらに、それらの遺伝子を用いて産業に有用な酵素や化学品原料を「微生物細胞工場」で生産する未来の「ものづくり」に取り組んでいます。これらの研究の積み重ねにより、水産資源の潜在力を未来社会に役立てていきます。
 ※2026年度より水圏生物工学研究室に名称変更

水圏材料分子化学 718
生命化学
 水棲生物を中心とした天然物から私達の健康や美容面に有効な成分や機能性構造物を探索するとともに、細胞や実験動物、ヒト皮膚組織を利用してそれらの作用機構を明らかにする研究をしています。本日は研究の紹介や皆様のご質問に教員ならびに学生がお答えします。

分子細胞生物学 754
生命化学
 主に動物細胞を用いて、DNA 複製や転写、細胞分化などに関する研究を行っています。本日は研究室の普段の姿を公開し、適宜質問にお答えします。
 ※一部精密機械や化学試薬がございますので、それらについてはお手をふれないようお願いいたします。

近鉄「江戸橋」駅 時刻表
 土休日（2025年9月1日現在）

名古屋方面 赤字：急行 / 名古屋行 四：四日市行

12 時	02	05	19	四 32	42
13 時	02	05	19	四 32	42
14 時	02	05	19	四 32	42

伊勢中川（奈良・大阪）方面 赤字：急行 / 松阪行・宇治山田行・五十鈴川行
津新：津新町行

12 時	松02	津新11	五22	津新34	松44
13 時	松02	津新11	五22	津新34	松44
14 時	松02	津新11	宇22	津新34	宇44

三交バス「三重大学前」停 時刻表
 土休日（2025年9月1日現在）

津駅方面

12 時	07	33	37
13 時	05	07	37 45 50
14 時	07	33	37

**三重大学生物資源学部の
オープンキャンパスは
いかがでしたか？**

今後の参考のため、
ぜひアンケートにご協力ください！
 QRコードを読み取って、
 申込時のログインID・パスワードを入力し、
 マイページの「アンケート」を
 選択して回答してください。



三重大学 生物資源学部

オープンキャンパス 2025

ガイドブック

10/19 日

9:00～12:00

生物資源学部校舎



目次

生物資源学部オープンキャンパスへようこそ	P.1
タイムテーブル	P.1
模擬授業・ブース紹介	P.2
研究室自由見学について	P.3
生物資源校舎案内図・研究室紹介	P.4～7
アンケート・交通機関時刻表	P.7



生物資源学部オープンキャンパスへようこそ

生物資源学部長 橋本 篤

生物資源学部は 1921年に創立された三重高等農林学校を前身とし、100 年以上の歴史を誇ります。農学部と水産学部を合併し、日本ではじめて「生物資源」という名称を冠したユニークな学部として、教育・研究活動をおこなっています。大学院の博士課程を単独で設置しており、学部学生の定員も260名と、東海・北陸・近畿・中四国地方では有数な規模を誇ります。本学部には約70もの教育研究分野があり、農林水産学系のほとんどの学問領域を網羅する数少ない大学のひとつです。

また、紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（農場、演習林、水産実験所）や、東海・北陸・近畿地方の国立大学では唯一の練習船「勢水丸」、さらには生物資源学部が中心的な役割を果たしている日本初の鯨類研究センターといった充実した関連施設を有しています。

「山の頂から海の底まで」を掲げる本学部のスタッフは、これら広大なフィールドを教育研究の対象とし、食料、環境、健康、バイオで活躍する「持続可能な未来を創る」人材の育成に日々取り組んでいます。あなたの好奇心を刺激する場所がきっとここにはあります。私たちと一緒に、次世代の生物資源学への一歩を踏み出しましょう。

タイム スケジュール

憧れのキャンパスライフを先取りできる貴重なイベントが盛りたくさん。
スケジュールをしっかり把握して、効率的にまわろう！

内 容	実施場所	実施時刻
受 付	生物資源学部 1F	8:45～11:30
学部紹介・模擬授業 入試説明	共通教育棟 (190)	9:00～10:30
フィールドサイエンスセンター 勢水丸・連携大学院ブース	生物資源学部 (206)	9:00～12:00
入試相談室	生物資源学部 (208)	9:00～12:00
学生生活ポスター（休憩室）	生物資源学部 (211)	9:00～12:00
研究室自由見学	生物資源学部 3F～7F 各研究室	9:00～12:00

模 擬 授 業



タイトル 魚の病気を研究する

場 所 共通教育棟（190） 時 間 9:00～10:30

所 属 海洋生物資源学コース 先生 北村 真一

内 容

魚を食べるのは好きですか？水族館に行くのは好きですか？実は、養殖業者や水族館の職員は、毎年のように感染症と戦っています。このような魚介類の病気を研究する学問を「魚病学」と呼んでいます。

魚病学の最終目的は病気をコントロールすることですが、病気になってしまった魚を見ていると、生理や形態が劇的に変化するなど、不思議な現象に出くわします。

魚病学では、この不思議な現象を基礎生物学的な視点から研究することもできます。

この講義では、魚病学の基礎研究と応用研究を紹介します。



頭に「おでき」ができたヒラメと
頭が溶けたマダイ

このセッションでは、生物資源学部の紹介と入試の説明についても行います。

ブ ー ス 紹 介

場所：生物資源学部（206）

フィールドサイエンスセンター・ 勢水丸・連携大学院ブース

生物資源学部は「山の頂から海の底まで」の生物資源と環境を総合的に学ぶことができる全国でもユニークな学部で、それを支えているのが充実した附属教育研究施設（フィールドサイエンスセンター（演習林、農場、水産実験所）、練習船「勢水丸」）と連携大学院です。附属教育研究施設はフィールドを中心とした教育・研究および地域貢献を目的とし、各施設の立地特性を活かした体験と研究ができる総合フィールドサイエンスの拠点として機能しています。また、当学部では様々な分野の最前線で活躍する研究機関や企業と連携し、高度な大学院教育を実施する連携大学院を設置しています。ブースではこれら施設や連携大学院で行っている教育・研究活動について紹介しますので、スタッフにお気軽にご質問ください。

場所：生物資源学部（208）

入試相談室

教員と入試担当職員が、入学試験（一般入試、学校推薦型選抜、来年度より始まる総合型選抜など）について皆さんの質問にお答えします。入試の参考となる各コースの情報についても提供します。

場所：生物資源学部（211）

学生生活ポスター（休憩室）

生物資源学部の学生の日々の生活を紹介したポスターを展示しています。皆さんが気になる学生のキャンパスライフをご覧ください。また、休憩室としてご利用ください。

研究室自由見学について

- どの研究室がどこにあって、どんな事をしているのか、階ごとに以降のページでご案内しています。

研究室名	部屋番号	研究室名	部屋番号	研究室名	部屋番号
農林環境科学コース		海洋生物資源学コース		生命化学コース	
研究室紹介		研究室紹介		研究室紹介	

- エレベーターは2台（Bゾーン、Dゾーン）とも使用可能です。
- 見学できる部屋には、ドアの前に統一規格の掲示があります。それを見つけたら、どんどん入っていきましょう！

勝手に入っていいんですか？！

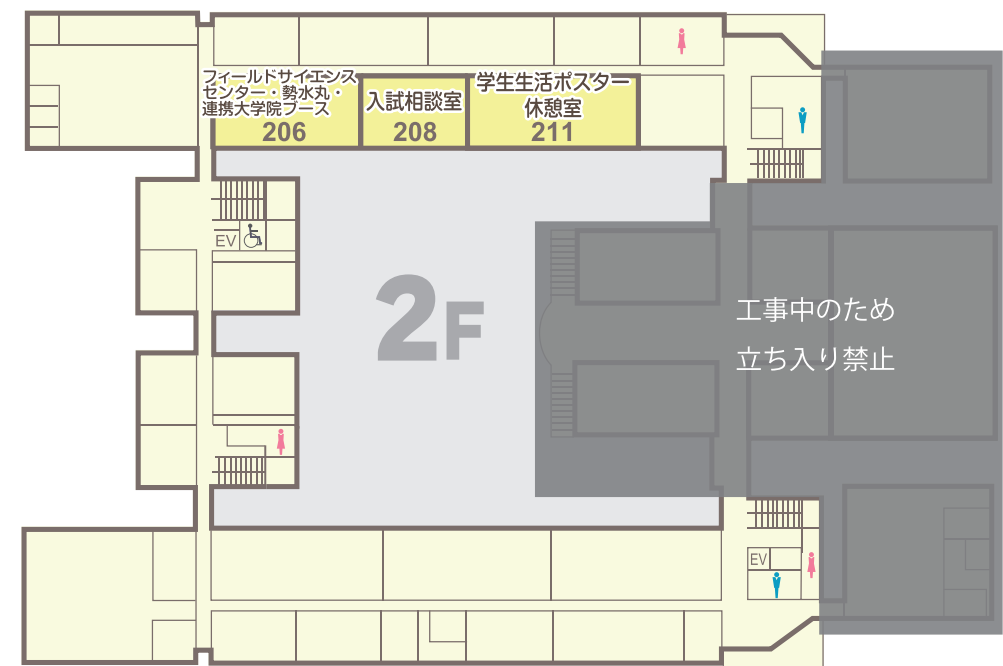
研究室がいっぱいありすぎてどこに行ったらいいかわからないです！

- 校舎内をスタッフが巡回しています。目的の部屋が分からないときなど、お気軽に声をかけてください。

ご注意ください！

- ◆ 安全のために装置や機械・薬品等に許可なく触れないでください。興味があるときは教員や学生に一声かけてから！
- ◆ ベランダに立ち入ったり、廊下の窓から乗り出したりしないで！
- ◆ その他、緊急の場合も含め、スタッフ（シールを付けています）の指示に従ってください。
- ◆ 研究室内では一切飲食は禁止されています。
- ◆ 校舎改修工事のため、立ち入り禁止の場所があります。工事中なので状況次第で立ち入り禁止の範囲が変わる可能性があります。

生物資源校舎案内図





フードシステム学

農林環境科学

3つのヒミツに迫る
「農業ロボットと人工知能のヒミツ！」
「農食に関わる五感・感性を可視化するセンシングのヒミツ！」
「植物工場のヒミツ！」
を、体験講座で知ることができま

応用環境情報学

農林環境科学

炭は燃料だけでなく、吸着材、土壌改良材や炭素貯留材など様々な用途があります。私たちは様々なニーズに対応した新時代の炭づくりを研究・開発しています。炭とは何か？どんな特徴があるのか？なぜ今炭に注目しているのか？すべての疑問にお答えします。

エネルギー利用工学

農林環境科学

「再生可能なバイオマス素材の開発」
環境に優しく生分解可能なバイオマスマテリアルの開発をテーマに、農業廃棄物を原材料とし、生分解可能なバイオボードの開発、農業用マルチシートの開発、水耕栽培型植物工場用培地の開発を行っています。

生産環境システム学

農林環境科学

「新しい光診断技術で生物や食の質を診断する」
農・畜・水産物の健康状態や品質を診断できるシステムに関する教育・研究を行っています。

土資源工学

農林環境科学

国内外の農地施設と農業用排水施設における様々な環境問題に対する持続的手法による解決と災害への対応も含めた農業構造物の保全を目標としています。具体的には、農業構造物に重要な「土」、「地盤」、「材料」、「水」の土木学のおよび工学的な現地調査・実験・解析手法に基づく地域環境保全に関する教育研究を行っています。

水資源工学

農林環境科学

農業・生命に欠かせない重要な「水」を研究しています
本研究室では、水草群落のあるため池、水棲生物であるカワニナを育む水路、ため池水難事故といった水環境を物理化学・生物地学等の視点で調査実験解析しています。

水利施設工学

農林環境科学

農業に必要な水を水田や畑に導くまでには多くの施設が必要です。当研究室では、水を確保し導くための構造物やその材料の研究を行っています。ダム、橋や水路などの構造物に興味のある方は是非いらしてください。

農村計画学

農林環境科学

農村地域が衰退すると、都市域の暮らしはどうか、ご存じですか？
私たちは、農業・農村をどうやって維持していくか？どうやって守るか？を考えています。
農村で人が楽しく快適に暮らしていけるように、コミュニティのあり方、農地の使い方などを追究しています。

地球システム進化学

農林環境科学

大学で行われるゼミの雰囲気、進路のこと、研究のこと、大学生活のことなど、お茶を飲みながら大学生・大学院生とゆる〜くお話ししましょう。学生たちが行っている研究の紹介、例えば、ブルーカーボンの研究、スナメリの研究、大学や高校のカーボンニュートラル・ゼロエネルギー化に関する研究、農業における二酸化炭素吸収の研究、琵琶湖の変遷やミエゾウの足跡化石に関する研究、美杉村の自然エネルギー循環社会に関する研究、菰川の生物多用に関する研究などををご紹介します。

昆虫生態学

農林環境科学

希少種や生物多様性の保全、害虫や外来種のコントロールを目指して、現在はチョウ・カメムシ・ハチの仲間を実験室で飼育しています。昆虫の生態や進化に興味ある方はぜひお越しください。

未来海洋予測学

海洋生物資源学

「海が未来の気候を左右する」…地球の表面積の7割を占める海は、大気に膨大な熱や水蒸気を与えることで、気候変動を制御しています。この研究室では、近年の極端気象の頻発化のメカニズムと海洋温暖化の関係について研究しています。

循環経営社会学

農林環境科学

人口減少社会は新たな農業問題をもたらしています。それは地域社会の縮小・不活性化、国産農産物の需要低迷、農業生産力の脆弱化などです。これらの解決のために、国内外の農業経営や食品関連企業の実態調査や、直売所利用の消費者調査など、フィールドを重視した研究を行っています。

園芸植物機能学

農林環境科学

身近な果物や野菜を「よりおいしくするには？」「効率よく楽に育てるには？」「暑さなどの悪環境に強くするには？」などのテーマに取り組んでいます。園芸作物に興味がある方は 462号室にご集合ください。

国際資源植物学

農林環境科学

【気候変動は土壌を劣化させる?!】
作物はその一生に必要な養分の多くを肥料からではなく土壌中の有機物から獲得しています。私たちは、持続的な作物生産を確保するために、気候変動が土壌有機物やそれに依存する作物に与える影響について研究しています。

森林微生物学

農林環境科学

森の栄養循環に欠かせない微生物の働きを明らかにするため、樹木に密接にかかわる菌類、細菌類、線虫の生態に関する研究を行っています。本日は微生物の分離・培養、観察やDNA解析で扱う機器の説明を大学生、大学院生が行い、ご質問にお答えします。

森林利用学

農林環境科学

森は生物の棲む場所です。その中の少しの部分を人は自然から借りて生きています。私達の研究室では、欲張って人がたくさん森の資源を使ってしまうたり、荒らしてしまわないように、適切な木の伐り方、伐る場所、伐る量などをフィールドでの調査や数学、GIS、リモートセンシングを使った方法で研究しています。

森林総合環境学

農林環境科学

持続可能な社会の実現のため木材利用が注目されていますが、どのような使い方をしても良いわけではありません。本研究室では、木材利用が地球環境や地域経済に与える影響の評価や評価のための手法の開発などを行っています。

森林保全生態学

農林環境科学

森林生態系のしくみを明らかにするために、森林に生育する野生植物の生態を研究しています。例えば、フィールドである森林や水辺林に通い、樹木めばえの生き残りパターンや成長を調べ、生育環境と生物との関係について考えます。

土壌圏循環学

土壌圏システム学

知っていますか？
土壌のすごい力を！
植物に水や養分を与えるのも
環境をめぐる水を浄化するのも
生物の生活の場を支えるのも
みんな土壌の優れた力です。
そんな土壌を様々なセンサーや
シミュレーションで探っています。
是非、来て、見て、触って下さい。

木質分子素材制御学

農林環境科学

石油の代わりに、木材や農業残渣を使って、様々な製品を創りだす研究をしています。バイオマス、バイオエタノール、生分解性素材、リグニン、紙、地球温暖化、石油代替、循環型社会、などに関心ある皆さんは是非お越しください。現役大学生、大学院生が、最前線の研究をお見せします。



藻類学

海洋生物資源学

海藻と海草の生理生態に関する基礎研究を行い、その生き方や生態系での役割を解明し、環境修復や養殖に役立てる研究を行っています。そのために培養実験や潜水調査を行っています。本日は培養している海藻や調査・実験機器が見学いただけます。

栄養化学

生命化学

食品成分の機能性を明らかにしたり、動植物や微生物から得られた未利用資源を有効活用し、生活習慣病の予防や健康の増進に役立てる研究をしています。本日は研究室を公開し、適宜質問にお答えします。